

## 日本脊椎脊髄病学会 平成 28 年度第 1 回安全医療推進委員会 議事録

日時：平成 28 年 10 月 14 日（金）7:00～8:00

会場：福岡サンパレス 4F 第 7 会議室

出席者：根尾昌志（担当理事）、今釜史郎（委員長）、岩崎幹季、大谷晃司、小西宏昭、村上英樹、鈴木秀典（書記）

欠席者：種市洋、宮腰尚久

### 報告事項

#### 1. これまでの委員会活動の経過報告

根尾担当理事から、これまでの当委員会の活動として、1994 年、2001 年、2011 年に全国脊椎脊髄手術合併症調査を行い、2011 年の調査結果を 2013 年に JSR（日本語）、2015 年に JOS に発表したことが報告された。さらに、調査結果から高齢者の腰部脊柱管狭窄症手術の合併症を抽出して論文を作成、一流国際誌 2 誌に投稿したが reject され、最終的には JOS に採択されたこと（現在印刷中）、高齢者の頸椎症性脊髄症手術の合併症に関する論文を SSRR に投稿し現在審査中であることが報告された。

### 審議事項

#### 1. 新委員長の互選

新委員長は今釜委員とすることを全員一致で決定した。書記は鈴木委員にお願いすることになった。

#### 2. 今後の活動について

これまでの当委員会の活動経過を踏まえ 2021 年頃を目途に次回全国合併症調査を行うことになった。

#### 3. 2011 年合併症調査の問題点の検討

2011 年調査の結果が本邦以外の国際誌に reject された原因について、これまでに publish した論文と 2 誌の reviewers' comments (reject)を参考に審議し、回収率の低さ（28%）と データの信頼性と完全性の欠如、が最も大きな問題であると結論した。

#### 4. 次回調査の方向性について

2011 年調査の上記問題点を解決するため、次の様な案が出された。

- 1) 各地区で責任者を決め、地区ごとの回収率を上げていく

- 2) 合併症調査協力の拘束力を増す。
- 3) 調査施設を限定する。
- 4) 調査期間を短くする
- 5) 各合併症の定義を明確に決めて、調査項目を絞り、各施設が入力しやすくする。  
重大合併症に限定する。
- 6) データ整理、入力作業を外部委託して、協力施設の負担を減らす。

#### 5. 今後の予定

上記方向性に基づいて、次回委員会までに下記のことをおこなうこととした。

- 1) 4-2),3)のために、脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設の義務とするのも一つの方法である。その場合は近々行われる認定の条件として合併症調査を前倒しして行うことも考える。担当理事の根尾委員が、専門医制度委員会担当理事の波呂理事と相談し、場合によっては次回理事会で審議事項として挙げる。
- 2) 4-5)のため岩崎委員より、大阪大学使用の合併症定義を明確にし極力単純化した合併症入力雛形を委員全員にメールで送付し、次回委員会までに各自、合併症項目、アンケート詳細などにつき検討してもらう。
- 3) 4-6)の外部委託が可能かどうか毎日学術フォーラムに打診し、可能であれば具体的な委託事項を決めて、その予算を理事会で審議してもらう。

#### 4. 次回会議日程

整形外科学会専門医試験に合わせて2017年1月19日(木)神戸ポートピアホテルでの開催とする。